

人間ドック受診者に対するオプション検査を開始して —開始6ヶ月間の受診状況と有所見率—

山川 政江 清水 由美 東根 五月 岡本 英夫 藤野 修 増田健二郎

小松島赤十字病院 健診部

要 旨

近年、健康に関心がある人は益々自分の健康状態をより詳しく知りたいと考え、定められた項目以外にも検査を希望する人がふえている。これら受診者のニーズに応える為、本年度よりオプション検査を実施する運びとなったので報告し、今後の問題点や方向を考えてみた。

対象は、本年4月から6ヶ月間に当健診部の一泊人間ドックを受診した679名で、オプション項目は、胸部CT検査、甲状腺エコー検査、甲状腺ホルモン検査、骨密度、マンモグラフィー、前立腺特異抗原（PSA）である。

オプション検査を申し込んだのは330名で、全受診者の47%であった。内訳は男性426名（36%）、女性253名（70%）であり、女性の方が希望する率が高かった。

項目別の受診状況は、男性ではPSAが79人と最も多く、次いで胸部CT検査の（55人）順であった。女性では、骨密度の希望が95人と最も多く、マンモグラフィー（84人）、甲状腺検査（66人）の順であった。PSAやマンモグラフィーは別として、男性の胸部CT、女性の骨密度や甲状腺検査と、必要な検査を正しく選択されていた。

有所見率では、高いものから順に甲状腺エコー検査（45%）、胸部CT検査（31%）、マンモグラフィー（10%）、骨密度（5%）、PSAと甲状腺ホルモン検査（共に4%）であった。今後、胸部CT検査を勧めてゆくと共に、喀痰検査の追加が望まれる。また、マンモグラフィーに対しては、年齢を考慮した申込み方とし、若年者には乳房超音波検査の追加が望まれる。これからも受診者のニーズにより多く応えてゆけるよう努力したい。

キーワード：人間ドック、オプション検査、受診率、有所見率

はじめに

小松島赤十字病院健診部（以下当健診部）では、平成3年以来コンピュータ化による自動化健診を実施し、最近では年間約2400人の受診者を迎えており、その他の健診と併せて、4800人の健康診断を行っている。当健診部における人間ドックの特徴は各種の企業や地方自治体と契約し、団体として迎え入れていることであり、一般の受診者は少ない。

近年、健康に関心がある人は益々自分の健康状態に対して、より詳しく知りたいと考え、政府管掌健康保険あるいは人間ドック学会が定めた項目以外にも、検査を希望する者が少なくない。これら受診者のニーズに応えるべく、オプション（自己負担）で検査を行うことは、当健診部がかねてから目指してきたことであったが、事務部門の充実により本年度よりよう

やく実施に移すことが出来るようになった。

本稿では当健診部でオプション検査を開始した本年4月から、半年間の状況を報告し、今後の問題点、方向を考えてみたい。

対象と方法

対象は本年4月から9月までの6ヶ月間に当健診部で人間ドックを受診した1520名の内、一泊人間ドックの受診者679名である。

オプション項目は、胸部CT検査、甲状腺エコー検査、甲状腺ホルモン検査（TSH, freeT3）、骨密度、マンモグラフィー、前立腺特異抗原（PSA）である。当然のことながら、マンモグラフィーは女性のみ、前立腺特異抗原（PSA）は男性のみである。

オプションの申し込みは案内書送付時に申込書を同封して、受診時に持参してもらう方法を採用したが、受

診当日にも申し込みを受け付けた。また、オリエンテーションの際にもオプション検査があることを案内した。

表1に各検査項目とその料金を示した。

表1 オプション検査項目とその料金

[画像診断]	
*胸部CT検査	10,000円
*甲状腺エコー検査	3,000円
*マンモグラフィー	3,000円
*骨密度(X線法)	2,000円
[血液検査]	
*甲状腺ホルモン検査(TSH, freeT3)	4,000円
*前立線特異抗原検査(PSA)	3,000円

結 果

1. オプション検査の受診状況

本年4月から9月までの6ヶ月間の一泊人間ドックの受診者は679名で、男性426名、女性253名で、男女比は1.7:1であった(図1)。このうちオプション検査を申し込んだのは実数で330名であり、全受診者の47%であった。これを男女別にみると(図2)女性では70%、男性では36%であり、女性の方が希望する率が高かった。

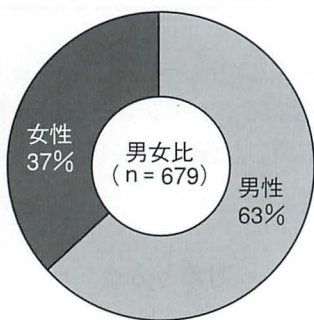


図1 男女別一泊ドック受診者数

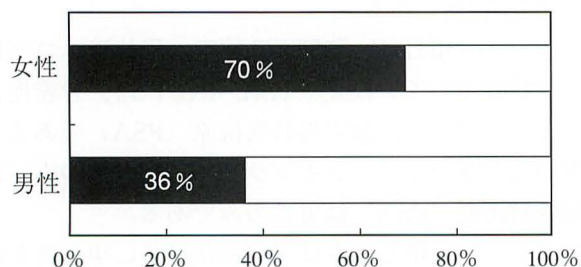


図2 男女別オプション受診者の割合

一人で複数項目のオプションを希望する受診者もおおく、延べ項目数では510項目であった。

1-2. 各項目別の受診状況

それぞれの受診項目を男女別にわけて、図3に示した。男性ではPSAが最も多く79名(48%)が受診し、次いで胸部CT検査が55名(36%)で、以下、甲状腺エコー41名(27%)、甲状腺ホルモン検査22名(14%)、骨密度検査15名(10%)の順であった。一方、女性では骨密度検査の希望が最も多く95名(54%)あり、マンモグラフィーがこれに次ぎ84名(48%)であり、さらに甲状腺エコー66名(38%)、甲状腺ホルモン検査34名(19%)、胸部CT検査19名(11%)の順であった。

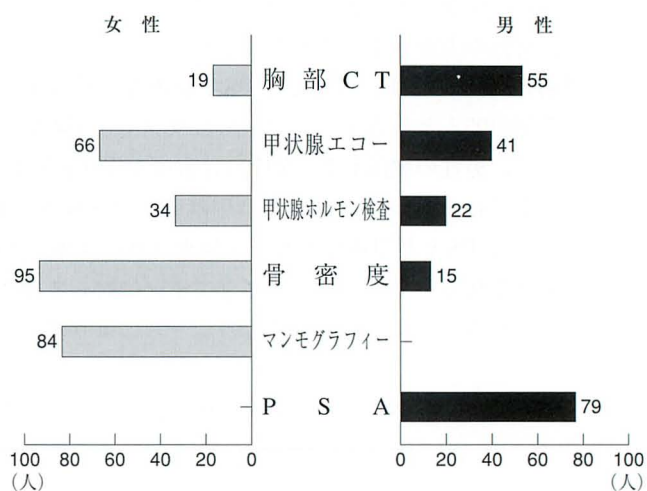


図3 検査項目別受診者数(男女別)

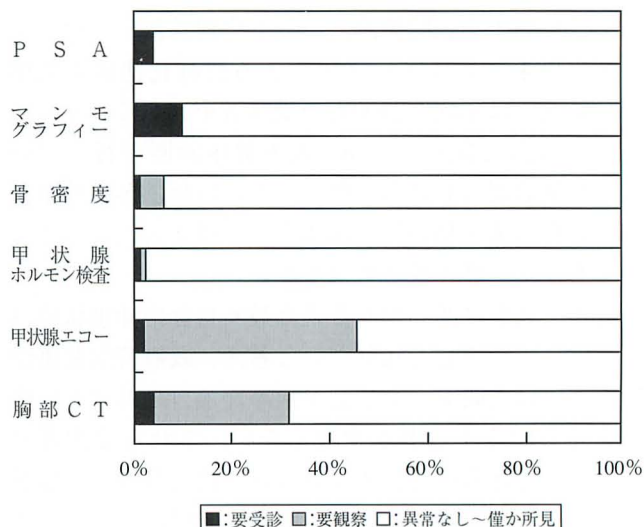


図4 オプション別有所見率

2. オプション検査における有所見率

オプション検査における有所見者の割合は、高いものから順に甲状腺エコー検査(45%)、胸部CT検査(31%)、マンモグラフィー(10%)、骨密度(5%)、PSA(4%)、甲状腺ホルモン検査(4%)となっている(図4)。有所見者のうち受診が必要と言われたのは、胸部CTでは23名中3名、甲状腺エコーでは48名中2名、甲状腺ホルモン検査では2名の内1名、マンモグラフィーでは8名全員、PSAでは3名全員であった。経過観察の割合の高いものは、甲状腺エコーと胸部CTで、要受診率の高いものは、マンモグラフィーと胸部CT、PSAであった。

考 察

本年度より、初めて開始した一泊人間ドックにおける受診の状況、有所見率を報告した。

オプション検査開始前にはどの程度の受診者があるか不安もあったが、結果は全体で、約50%、女性では3/4の受診者がオプション検査を申込み、予想外の高率であった。

一泊人間ドックの料金は6万円を超える(人間ドック学会により規定)ものであり、これにさらに追加料金を支払ってオプション検査を受けていただけるかは大きな不安であった。

このため料金設定を可能な限り抑えるように病院側にお願ひし、表に示したように決定した。この料金は例えば胸部CTでは、某病院では15,000円であり、他の病院ではかく痰細胞新と併せて18,000円であるので、当院の10,000円が如何に安価であるかよく分かる。予想以上の受診をしていただいたことには当然、各々の方の健康に対する関心の高さによるものであるが、病院側の協力による低価格な料金設定が一助となった可能性も高い。

オプション項目ごとの受診率は男性ではPSAが最も多く48%が受診し、次いで胸部CT検査が36%で、以下、甲状腺エコー27%、甲状腺ホルモン検査、骨密度検査の順であった。

女性では骨密度検査の希望が最も多く54%あり、マンモグラフィーがこれに次ぎ48%であり、さらに甲状腺エコー38%、甲状腺ホルモン検査、胸部CT検査の順であり、男性と対照的であった。PSAやマンモグラフィーは別として、男性の胸部CT、女性の骨密度

や甲状腺検査は必要な方が多く受けており、正しく選択されていると思われた。その一方で若年男性がPSAや骨密度を受けている場合もあった。適切な指導が必要であろうと思われたが、数としては多くないので、本人が特別な理由により希望したのかも知れない。

おのおの検査項目別にみると、胸部CTでは、胸部単純X線による肺癌の健診で生存率に有意差がないことは欧米でも我が国でも報告されており¹⁾、CTによる健診の必要性が叫ばれているが、実現していない。これをオプションとして希望者が受けられることは意義深い。当院のCT検査での撮影された画像の数は60枚であり、単純レ線の2枚に比べると情報量の多さは雲泥の差があるのは当然のことであろう。今後の課題としては肺野型の癌はCTが有効であるが、気管支より発生する扁平上皮癌に対してかくたん細胞診を加えることが望まれる。

甲状腺エコー検査の有所見率は約45%であったが、成書にも人間ドックにおいては50%に何らかの所見(腺腫様甲状腺腫、橋本病、腫瘍)が認められるとされており²⁾、我々の成績と一致している。

マンモグラフィーの受診率は48%と高く、近年の乳癌による死亡率の上昇により³⁾検診のニーズが高まっている為と考えられる。また、マンモグラフィーによる乳癌検診は、50才以上ではその有効性が証明されているが、若年者では乳腺が充実している為、超音波検査の方が望ましいと言われている^{4) 5)}。今後、若年者の申込み者に対応できるよう、超音波による乳癌検査がオプションに加えられることが望まれる。

前立腺癌の発見率は加齢と共に上昇し、食生活の欧米化に伴い、死亡率も高まっている。前立腺癌検診にPSAを用いることは、癌の早期発見と言う点で力を発揮していることが報告されている⁶⁾。当院のオプション検査での有所見率は、4%(3名)と低率であった。この3名は、全員50才代であり、50才代の癌発見率が一番高いとする前立腺健診の全国統計と一致する。今後もオプション検査の説明時には、50才以上の方に積極的に勧めていくつもりである。

今回の集計とは別に、7月より歯科検診もオプションに加わって戴き、これが10名/月程度の申し込みがあるようになった。このため、最近ではここに示したよりも多くの受診率になっており、総合病院のメリットが生かされていると考えられる。

文 献

- 1) 金子昌弘：肺がん CT 検診の現状. 第40回日本人間ドック学会抄録集, 1999
- 2) 小林 功：甲状腺, 人間ドックマニュアルー健康評価と指導のポイントー. pp 医学書院, 東京, 244-250, 1991
- 3) 国民衛生の動向, pp52-53, 1998
- 4) 森本忠興：乳癌検診とともにー触診からマンモグラフィーへー. 日本乳癌検診学会誌, 1994
- 5) 山本照幸 他：50才未満の乳癌症例の検討. 第41回日本人間ドック学会抄録集：279, 2000
- 6) 三木 誠：前立腺疾患の現状と健診の意義. 健康医学 14：401-404, 2000

Starting Optional Examinations for the Subjects of a Thorough Medical Examination —The State of Receiving Examinations and The Rates with Some Findings—

Masae YAMAKAWA, Yumi SHIMIZU, Satsuki HIGASHINE,
Hideo OKAMOTO, Osamu FUJINO, Kenjiro MASUDA

Division of Health Care, Komatsushima Red Cross Hospital

In recent years, people who are interested in health and want to know more about their health conditions and those who wish examinations other than the prescribed ones are increasing. To meet the needs of these subjects, we have decided to carry out optional examinations from this fiscal year.

The subjects were 679 people who underwent an overnight-stay thorough health check at our Division of Health Care for 6 months from this April and the optional examination were the chest CT, echography of the thyroid gland, thyroid hormone test, bone mineral density measurement, mammography and prostatic specific antigen (PSA) test.

330 people (47% of the total number) applied for optional examinations. They consisted of 426 men (36%) and 253 women (70%) and more women wished to undergo optional examinations.

With respect to the examination parameters, men requested PSA test most frequently followed by the chest CT. Women requested bone mineral density measurement most frequently followed by mammography and thyroid test. Apart from PSA and mammography, the necessary examinations were chosen rightly such as the chest CT by men and bone mineral density measurement and thyroid test by women.

The rate of finding abnormality was high for the echography of the thyroid gland, chest CT, mammography, bone mineral density measurement, PSA and thyroid hormone test in this order. In future, it is desirable to add the examination of sputum while promoting the chest CT. Concerning mammography, it should be applied taking the age into consideration and addition of the breast ultrasonography is desired for the young. We wish to make effort to meet the need of applicants more.

Key words : thorough medical examination, optional examination, rate of undergoing examination, rate of finding abnormality

Komatsushima Red Cross Hospital Medical Journal 6 : 143-146, 2001
